

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 三重県教育委員会
2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

本事業を通して、子どもの成長に応じた小・中学校の円滑な接続のための取組を推進するため、先導的な取組を行う県内の市教育委員会による域内全域での小中一貫教育の推進に資する効果的な取組を支援し、普及を図る。委託先市町においては、9年間を見通した特色ある教育活動を展開する中で学力向上、生徒指導、中一ギャップの解消、キャリア教育、郷土教育等についての研究を行う。小中一貫教育を推進するための体制の構築、学校設置者等との連携を図る。

(2) 事業の実施状況

小中一貫教育推進会議における協議や講師からの指導・助言、先進地視察などで得た知見などをもとに、協力3市での取組や研究が進んだ。協力3市では、小中一貫教育推進のための組織をつくり、小中一貫した「めざす子ども像」やそれを実現するための方法等を検討し、グランドデザインやカリキュラムが作成された。また、講演会や研修会の実施によって、小中一貫教育に対する学校の教員や保護者の理解が深まった。作成されたグランドデザインやカリキュラムのもとに、「めざす子ども像」を共有し、その実現に向けた授業実践が進んでいる。いなべ市協力校によるプレ発表会を広く公開することにより、他市町の主導主事なども参加し、取組の成果を広める機会になった。

(3) 事業の成果

協力校の教員が小中一貫教育の理解を深めながら授業等の実践を始めたことから、子どもの学習への取組状況や生活状況において、課題が改善されてきている部分が見られる。いなべ市協力校によるプレ発表会は、他市町の小中一貫教育への関心を高めるとともに、成果を広めることができた。また、文部科学省参与・三重県教育委員会特別顧問の貝ノ瀬滋先生の講演・助言により、参加者へ小中一貫教育の意義や効果を伝えることができた。小中一貫教育の成果を広報することにより、小学校と中学校とで連携を行う学校が増えてきている。

(4) 今後の取組予定

○「三重県小中一貫教育研究協議会」を設置し、貝ノ瀬 滋氏（文部科学省参与・三重県教育委員会特別顧問）を招へいして、以下について取り組み、協力する3市教育委員会の取組を充実させる。

- ・協力3市の小中一貫教育についての取組内容、取組状況を確認し、状況に応じて指導助言を行う。
- ・取組の成果と課題から、取組の改善と課題を克服するための方法の検討を行う。
- ・小中一貫教育で得られた知見を通常の小学校・中学校における小中連携に活かすための効果的な取組の成果と課題についての総括した報告書を作成する。

○取組の成果を普及し、県内の小中一貫教育及び小中連携教育を推進するため、以下について取り組む。
 ・県教育委員会が行う、各市町教育委員会担当者会、各校担当者会などにおいて、それぞれの内容に合わせた取組成果や知見を伝える。

4. 取組 I の実績

(1) 取組のねらい

本事業を通して、子どもの成長に応じた小・中学校の円滑な接続のための取組を推進するため、先導的な取組を行う県内の市町等教育委員会による域内全域での小中一貫教育の推進に資する効果的な取組を支援し、普及を図る。小中一貫教育を推進するための体制の構築、学校設置者等との連携を図る。

2) 取組 I の実施状況 (平成28年度)

9月	○第1回三重県小中一貫教育推進会議<12日> (取組内容と期待される成果について、情報交換と協議、講師の貝ノ瀬滋先生からの助言と指導、講演)
10月	◇第11回小中一貫教育全国サミットin武蔵村山への参加<21, 22日> ・義務教育学校に係る津市との連絡協議<28日> (来年度開校予定の義務教育学校に関する、進捗状況や課題についての連絡協議)
11月	○員弁中学校区プレ研究発表会<22日> (協力市のいなべ市の取組協力校による公開授業、研究協議、中学校区の取組の経過報告、講師の貝ノ瀬滋先生からの助言と指導、講演)<16日> ◇2020年代の学びを変える先進的ICT・小中一貫教育研究大会への参加
12月	
1月	○教育委員の学校訪問(いなべ市立藤原中学校)<19日> (施設一体型による小中一貫教育の実施に向け、研究を推進している藤原中学校の様子と藤原小学校新校舎の施設の特徴を視察)
2月	○成果報告書の作成
3月	○成果報告書の配付

(3) 取組の成果

いなべ市協力校によるプレ発表会は、他市町の小中一貫教育への関心を高めるとともに、成果を広めることができた。また、文部科学省参与・三重県教育委員会特別顧問の貝ノ瀬滋先生の講演・助言により、参加者へ小中一貫教育の意義や効果を伝えることができた。
 小中一貫教育の成果を広報することにより、小学校と中学校とで連携を行う学校が増えてきている。

(4) 今後の取組予定

- 「三重県小中一貫教育研究協議会」を設置し、協力する3市教育委員会の取組を充実させる。
- ・協力3市の小中一貫教育についての取組内容、取組状況を確認し、状況に応じて指導助言を行う。
 - ・取組の成果と課題から、取組の改善と課題を克服するための方法の検討を行う。
 - ・小中一貫教育で得られた知見を通常の小学校・中学校における小中連携に活かすための効果的な取組の成果と課題についての総括した報告書を作成する。
- 取組の成果を普及し、県内の小中一貫教育及び小中連携教育を推進するため、以下について取り組む。
- ・県教育委員会が行う、各市町教育委員会担当者会、各校担当者会などにおいて、それぞれの内容に合わせた取組成果や知見を伝える。

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	桑名市教育委員会	
Ⅱ-2	いなべ市教育委員会	
Ⅱ-3	名張市教育委員会	

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号	Ⅱ－１
------	-----

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 桑名市教育員会

住所	桑名市中央町2丁目37番地
代表者職・氏名	教育長 近藤 久郎

2. 取組の名称 : 9年間を見通した魅力ある教育活動への調査・研究

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

義務教育9年間を通して、子どもたちの確かな学力と豊かな心、健やかな体の育成のため、学習指導や生活指導に関する課題をはじめ、小中学校間の段差から生じる諸問題を解消しつつ、これまでの中学校区で取り組んできた小中交流・連携を推し進め、小中一貫教育の調査研究を進める。小中一貫教育に関して先進地視察を行い、全国の先進的な取組や桑名市の実情にあった取組から学ぶことや、大学の講師を招聘することにより、今後の桑名市の小中一貫教育の方向性を模索する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

6月	第1回多度中学校区小中一貫教育研究連絡会（3日） ※多度中学校区が抱える教育課題についての整理と目指す子ども像の共有 ※小中一貫教育多度中学校区講演会の開催に向けて
7月	第2回多度中学校区小中一貫教育研究連絡会（14日） ※各学校での取組についての方向性の共有、取組状況の交流と反省 ※小中一貫教育多度中学校区講演会の開催に向けて ※授業交流について
8月	学校教育あり方検討委員会講演会（全中学校区対象）（講師招聘）（9日） 多度中学校区講演会（講師招聘）（22日）
10月	第3回多度中学校区小中一貫教育研究連絡会（5日） ※乗り入れ授業の実施について ※先進地視察について ※小中一貫教育研究協議会の内容検討 先進地視察（第11回小中一貫教育全国サミットin武蔵村山）（21日・22日） 先進地視察（東京都千代田区麹町小学校、昌平小学校）（24日）
11月	先進地視察（姫路市立白鷺小中学校）（4日） 第4回多度中学校区小中一貫教育研究連絡会（21日） ※小中一貫教育研究協議会の内容検討 ※乗り入れ授業の実施について
12月	第5回多度中学校区小中一貫教育研究連絡会（12日） ※乗り入れ授業の成果と課題について ※小中一貫教育研究協議会の内容検討 第1回小中一貫教育研究協議会（講師招聘）（27日） ※多度中学校区の小中学校における共通課題の整理

1月	<p>第6回多度中学校区小中一貫教育研究連絡会（16日） ※多度中学校区における小中一貫教育の今後の方向性について ※先進地視察について（広島県呉市立川尻中学校）</p> <p>第2回小中一貫教育研究協議会（講師招聘）（26日） ※多度中学校区の小中学校における共通課題の整理 ※共通課題を解消していくための優先順位の絞り込み</p>
2月	<p>第7回多度中学校区小中一貫教育研究連絡会（16日） ※今年度の総括と来年度に向けて</p> <p>第3回小中一貫教育研究協議会（講師招聘）（10日） ※めざす児童生徒子ども像を実現していくためのカリキュラム作成の視点</p> <p>第4回小中一貫教育研究協議会（講師招聘）（24日） ※小中一貫教育を推進していくための学校組織、文化、地域との連携 等</p>

(3) 取組の成果

<p>1 多度中学校区小中一貫教育研究連絡会 年間7回、月1回程度開催した。多度中学校区は、4小1中となっており、分離型の形態となっている。今までに小中連携としての取組は、十分に行ってきており、一定の成果が見られる。今年度、小中一貫教育の研究を推進していくにあたり、まずは、9年間のめざす子ども像を設定するところから始め、「生きる力を育み、地域を愛する児童生徒の育成」と決定した。本連絡会は、各校の学校長と教育委員会が参加するものであり、年間の取組に対して協議を行ったり、進捗状況を確認したりする有効な機会となった。</p> <p>2 先進地視察 第11回小中一貫教育全国サミットin武蔵村山、姫路市立白鷺小中学校、千代田区麴町小学校・昌平小学校、呉市立川尻中学校への先進地視察を行った。平成27年度は、教育委員会の指導主事と多度中学校区の管理職を中心に視察等を行い、小中一貫教育について理解を深めた。今年度、この事業の取組の大きな目標として、管理職だけでなく、教職員についても小中一貫教育について、さらに理解を深める機会をつくり、中学校区としての方向性を揃えていく、教職員の意識のベクトルを揃えていく点が挙げられる。そして、学んだことから学校が主体的に考えていける素地をつくっていくことを目的とした。今後、多度中学校において、小中一貫教育が進められていく場合、施設分離型のスタートになる想定から、分離型で小中一貫教育を行っている川尻中学校の実践は、大変参考になった。</p> <p>3 小中一貫教育多度中学校区講演会 8月22日（月）に奈良教育大学の赤沢早人准教授を講師として招聘し、多度中学校区の教職員を対象に「小中一貫教育について」という演題で講演会を行った。講演会の後、参加者のグループ討議を経て、赤沢先生との質疑応答としたことは、参加者にとって受身的でなく、中学校区における具体的な取組をイメージし、共有するよい機会とすることができた。</p> <p>4 小中一貫教育研究協議会 多度中学校区をモデル校として小中一貫教育をさらに推進していくために、年間で4回の小中一貫教育研究協議会を設定した。小中一貫教育多度中学校区講演会同様、奈良教育大学の赤沢准教授を招聘し、多度中学校区の管理職、教諭を参加対象とした。協議会では、中学校と小学校のグループに分かれ、KJ法を用いながら、小中一貫教育を行うにあたっての課題を出し合うところから協議を始めた。共通課題の整理から、めざす子ども像を確認し、めざす子ども像に迫るために重点を設定し、カリキュラムの作成や学校体制づくり、必要な教育的段差等について協議を行った。この内容は校内研修等においても活用できると思われるので、中学校区で足並みを揃えていくために、来年度活用していきたい。</p>
--

(4) 今後の取組予定

<p>今年度は、本市の望ましい学校教育のあり方について有識者による「学校教育あり方検討委員会」を立ち上げ、審議を行い3月末に答申を受ける予定である。8月等に協議会を計画していたが、答申の内容が不透明なまま取組を進めていくよりも、9月に出された中間まとめに準じて、取組を進めていく方が有効かつ効果的であるため、後半に設定した。このことにより、来年度以降の多度中学校区での取組が具体化されてきたので、学校教育あり方検討委員会の答申を受け、多度中学校ブロックでの取組をさらに深化させていき、各中学校ブロックにその成果を広めていきたい。</p>
--

事業成果報告書

[取組Ⅱ] 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－２

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : いなべ市教育委員会

住所 : いなべ市大安町大井田2704番地

代表者職・氏名 : 教育長 片山富男

2. 取組の名称 : いなべ市新しい学校づくり

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

子どもたちの「豊かな心」「確かな学力」「健やかな体」を育み、主体的に自らの未来を切り拓く力や豊かな人間関係を結ぶ力など一人ひとりの可能性を最大限に引き出すために、「目指すべき子どもの姿」を明確にし、その姿を学校・地域・家庭が共有し、現在の小中連携をさらに推し進め、9年間の義務教育に責任を持った「9年間の学びと育ちをつなぐ教育」を推進する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

4月

【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（4月21日）

(1) 年間日程の確認

(2) いなべ市小中一貫教育基本方針策定に向けた検討開始

【いなべ市教育研究会 運営委員会】（4月8日）

(1) 年間日程の確認

(2) 各中学校区の推進計画について

【いなべ市教育研究会 研修委員会】（4月15日）

(1) 活動交流

(2) いなべ市小中一貫教育の推進体制の確認

【中学校区小中一貫教育推進WG会議】

(1) 小中一貫教育コーディネータによる推進計画の作成

【いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム委員会】

(1) 合同委員会の開催（4月11日）

5月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（5月19日）</p> <p>(1) いなべ市小中一貫教育基本方針の検討</p> <p>(2) 各中学校区の推進計画の交流</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（5月20日）</p> <p>(1) 各中学校区の推進計画の交流</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>(1) 中学校区小中一貫教育グランドデザインの検討</p> <p>(2) 中学校区「未来いなべ科」カリキュラム作成</p> <p>(3) 中学校区「人権教育」カリキュラム作成</p> <p>(4) 領域別カリキュラムの作成と検証</p> <p>(5) 各中学校区生徒指導上の諸課題の解決について</p> <p style="text-align: center;">※以上5点の推進計画については、各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム委員会】</p> <p>(1) いなべ市教育研究会 総会の場において、教科別カリキュラムの作成趣旨についてのプレゼン</p> <p>【いなべ市小中一貫教育リーフレットの配付】</p> <p>・ 地域自治会への配付</p>
6月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（6月2日）</p> <p>(1) いなべ市小中一貫教育基本方針の検討</p> <p>(2) 各中学校区の実践交流</p> <p>(3) いなべ市小中一貫教育意識調査の実施について</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（6月3日，24日）</p> <p>(1) 各中学校区の取り組み交流</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム委員会】</p> <p>(1) 教科別カリキュラムにおける各学校からの意見集約</p>
7月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（6月30日）</p> <p>(1) いなべ市小中一貫教育基本方針の骨子検討</p> <p>(2) 各中学校区の実践交流</p> <p>(3) 教科別カリキュラムの入稿に向けた確認</p> <p>(4) 楽しく豊かな学校生活を送るための入稿に向けた確認</p> <p>【いなべ市教育研究会 研修委員会】（7月8日）</p> <p>(1) 各中学校区の実践交流</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム委員会】</p> <p>(1) 教科別カリキュラムの修正と最終稿の確認</p> <p>【いなべ市児童・生徒生活アンケートの実施】</p>
8月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（8月26日）</p> <p>(1) いなべ市小中一貫教育基本方針の検討 第1回</p> <p>(2) いなべ市児童・生徒生活アンケートの分析について</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラム委員会】</p> <p>・ 平成28年8月31日解散</p>
9月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（9月29日）</p> <p>(1) いなべ市小中一貫教育基本方針の検討 第2回</p> <p>(2) 員弁中学校区小中一貫教育研究プレ発表会について</p> <p>(3) 上半期の推進計画について</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（9月2日）</p> <p>(1) 上半期の推進計画について</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】</p> <p>※各中学校区の計画による</p>

10月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（10月20日） （1）各中学校区の実践交流 （2）いなべ市小中一貫教育基本方針の検討 第3回</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（10月7日） （1）各中学校区の実践交流</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による</p> <p>【小中一貫教育全国サミットin武蔵村山への参加】 ・10月21日～22日</p>
11月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（11月18日） （1）いなべ市小中一貫教育基本方針の検討 第4回 （2）員弁中学校区小中一貫教育研究 プレ発表会を終えて （3）各中学校区の実践交流</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（11月4日） （1）各中学校区の実践交流</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による</p> <p>【員弁中学校区小中一貫教育プレ発表会】（11月16日） ・いなべ市内外より136名の参加</p>
12月	<p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（12月2日） （1）各中学校区実践交流と平成28年の総括について</p> <p>【いなべ市教育研究会 研修委員会】（12月9日） （1）各中学校区実践交流</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による</p> <p>【いなべ市小中一貫教育教科別カリキュラムの配付】 ・いなべ市内全教職員</p>
1月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（1月5日、26日） （1）いなべ市小中一貫教育基本方針の検討 第5.6回 （2）いなべ市小中一貫教育グランドデザインの検討 第1.2回</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（1月13日） （1）平成28年度総括と平成29年度への申し送りについて</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による</p> <p>【藤小なびの完成と配付】 ・保護者説明会にて藤原小学校全保護者へ配付</p>
2月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（2月16日） （1）いなべ市小中一貫教育基本方針の検討 第7回 （2）いなべ市小中一貫教育グランドデザインの検討 第3回 （2）平成29年度の計画について</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（2月3日） （1）平成28年度総括と平成29年度への申し送りについて</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による</p> <p>【楽しく豊かな学校生活を送るために 完成】 ・平成28年度小1年～中2年及び平成29年度新1年生児童生徒へ配付</p>
3月	<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会】（3月2日） （1）平成29年度 小中一貫教育リーフレット原案の確認</p> <p>【いなべ市教育研究会 運営委員会】（3月2日） （1）平成29年度申し送り事項の確認</p> <p>【中学校区小中一貫教育推進WG会議】 ※各中学校区の計画による</p>

(3) 取組の成果

- ①いなべ市「新しい学校づくり」基本方針の作成
いなべ市がめざす小中一貫教育の考え方や推進内容を示した。
平成29年4月1日付けで、教職員及び学校関係者に配付する予定。
- ②各中学校区小中一貫教育グランドデザインの完成
各中学校区、グランドデザインを策定。平成29年度より、小中一貫教育グランドデザインで定めた「学校教育目標」を統一する。
☆完成中学校区数 目標値【4】→結果【4】
学校教育目標が中学校区で統一されることにより、保護者・地域に対しても小中一貫教育の可視化がされるとともに、9年間の学びの連続性や系統性を意識することにもつながった。
- ③各中学校区「未来いなべ科」カリキュラムの作成
平成29年度より試行とともに、全面実施の予定。
- ④各中学校区「人権教育」カリキュラムの作成
平成29年度より試行とともに、全面実施の予定。
- ⑤推進体制の確立
【いなべ市小中一貫教育推進委員会(INB9)の設置】
いなべ市新しい学校づくり推進ビジョンを具現化し、いなべ市の小中一貫教育を一体的にマネジメントするとともに、関係機関との連携・調整を図るとともに、その方向性を示すことができた。
【小中一貫教育コーディネーターの配置】
中学校区に2名(中学校教諭代表1名、小学校教諭代表1名)を配置。
【いなべ市教育研究会との連携】
いなべ市小中一貫教育推進委員会と連携して、小中一貫教育に係る研究協議と具体的な取り組みの提案
【中学校区小中一貫教育推進WG会議の設置】
小中一貫教育コーディネーターを中心に、具体的な取り組みの推進。
- ⑥員弁中学校区小中一貫教育プレ発表会の開催
平成29年度に研究発表会を予定しているため、今年度その準備を兼ねて、プレ発表会を実施し、運営方法について検討した。研究発表会では、文部科学省参与 貝ノ瀬 滋さんを迎え、講演会を行った。
- ⑥成果指標の設定について
小中一貫教育の推進において、成果項目を設定した。
項目と平成28年度当初の目標値、達成値(H28年度データによる)は以下のとおり。

1 小学校（4～6年） いなべ市児童生徒生活アンケートによる

		目標値%	H28達成値%
1	勉強が好きな子(国語)	70	70
	勉強が好きな子(算数)	70	75
2	主体的に学ぶ子	80	87
3	自分のよい所を伸ばし、挑戦する子	80	75
4	健康で思いやりのある子	95	97
5	友だちと協力し、達成感を味わえる子	95	90
6	ふるさと“いなべ”を愛する子	70	69
7	将来の夢や目標に向かって努力する子	95	88

2 中学校（全学年） いなべ市児童生徒生活アンケートによる

		目標値%	H28達成値%
1	勉強が好きな子(国語)	70	64
	勉強が好きな子(数学)	70	73
2	主体的に学ぶ子	80	62
3	自分のよい所を伸ばし、挑戦する子	80	71
4	健康で思いやりのある子	95	97
5	友だちと協力し、達成感を味わえる子	95	91
6	ふるさと“いなべ”を愛する子	70	59
7	将来の夢や目標に向かって努力する子	95	75

(4) 今後の取組予定

<p>【いなべ市小中一貫教育検討委員会（INB9）】の設置 平成28年度設置した「いなべ市小中一貫教育検討委員会」を「いなべ市小中一貫教育推進委員会（INB9）」に名称変更し、構成メンバーを増員して新たに設置する。</p> <p>【藤原小学校開校】 中学校併設型小学校の開校による小中一貫教育の本格実施。 員弁中学校区における、施設分離型小中一貫教育の本格実施。</p> <p>【員弁中学校区 小中一貫教育研究発表会の開催】 平成29年11月10日（金）</p> <p>【藤原小学校・中学校 学校公開】 平成29年11月8日（水）</p> <p>※北勢中学校区、大安中学校区については、平成30年度本格実施の予定。</p>
--

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕 協力市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－3

1. 協力市町村教育委員会等の名称 : 名張市教育委員会

住所 : 名張市鴻之台1番町1番地

代表者職・氏名 : 名張市教育委員会
教育長 上島 和久

2. 取組の名称 : 小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

・小学校6年間、中学校3年間という括りを取り払い、様々な教育課題の解決を目指して、子どもの育ちに合った9年間の一貫した、系統性・連続性のある教育の在り方について考える。

(1) 教育委員会の取組

- ・南中学校、つつじが丘小学校を小中一貫教育研究推進校に指定（2年目）。
- ・「小中一貫英語カリキュラム」の実施検証とふるさと学習「なばり学」カリキュラムの作成
- ・小中一貫教育コーディネーターを研究推進校に配置。（研究の推進と教育委員会との連絡調整、合同研修会に向けての資料作成、教職員の乗り入れ授業・児童の中学校登校・児童生徒会活動・地域とのふれあい行事等の調整。事業の成果検証のための情報収集や資料作成。）
- ・小中一貫教育講演会を開催し、市民・教職員の小中一貫教育に対する理解を深め、市内全小中学校における小中一貫教育導入の準備を進める。

(2) 研究推進校の取組

- ・研究指定2年目を受け、英語教育・ふるさと学習・キャリア教育等を切り口とした研究（教育課程・教育活動等）を行う。
- ・先進地域視察や文部科学省主催の研修会に参加し、理解を深める。
- ・教科担任制や乗り入れ授業を実施し、小中学校の教員が互いの教育内容・教育方法等の理解を深め、行事・体験活動等を実施・検討する。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成28年度）

4月	研修推進校研修会<組織づくり・年間計画作成>
5月	研究推進校研修会<各部推進計画作成>
6月	研究推進校研修会<部会><小中一貫英語教育推進について>
7月	研究推進校研修会<各部会> 第1回推進協議会

8月	ふるさと学習「なばり学」検討委員会の開催 研究推進校研修会<1学期の取組反省と2学期以降の計画> 研究推進校合同研修会（講師招聘：「教育現場でのスカイプ等を使った効果的なICT機器活用法」）
9月	研究推進校研修会<授業研究事前検討>（講師招聘：外国語活動の授業実践研修）
10月	小中一貫教育全国サミットへの参加（武蔵村山市） 研究推進校研修会<授業研究>（講師招聘） 第2回推進協議会
11月	研究推進校研修会<中間報告内容検討>
12月	研究推進校取組内容中間報告（教育フォーラム） 小中一貫教育とCS推進のための先進地視察（山口県）
1月	研究推進校研修会<各部会>
2月	研究推進校研修会<本年度の取組の総括> 小中一貫教育にかかる関係指定事業研究協議会への参加（東京） 小中一貫教育とCS推進のための先進地視察（山口県） 第3回推進協議会
3月	研究推進校研修会<来年度の実施計画>

(3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進校においては、取組の道筋ができてきた。特に、たよりによる保護者・地域への発信は有効で、今後、コミュニティ・スクール導入を進める中で、さらに、地域や保護者の協力が得られるものと期待する。 ・市としては、小中一貫英語教育カリキュラムの策定の次に、ふるさと学習「なばり学」のカリキュラムを策定し、これに基づいて学習資料集の執筆・編集をスタートさせ、第1稿を完成させることができた。 ・児童生徒：魅力の調査では、市内5中学校区のうち、研究推進校（つつじが丘小学校・南中学校）以外の4中学校区では、調査項目すべてにおいて、小学校6年生の3月の調査より、中学校1年生になった7月の意識がマイナスとなっているのに対し、研究推進校では、4項目すべてにおいて向上しているという結果であったことが、小中の段差が解消されていることの一つの表れでもあり、大きな成果である。 ・保護者・地域住民へ「小中一貫教育だより」を発行したことで、小中一貫教育について保護者の理解が進んだことは、研究推進校が取組を保護者・地域住民へ発信した成果である。 ・教職員：小中学校の教職員が同じ目的の下研修会や部会で協議を重ねる中で、理解が深まり、協力し合える関係ができてきた。

(4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、研究推進校以外の他の中学校区における小中一貫教育についての体制整備を行う必要がある。 ・今後、第2次名張市子ども教育ビジョンに基づき、名張版コミュニティ・スクールを創設し、小中一貫教育を推進するなかで「地域とともにある魅力ある学校づくり」をすすめていく予定である。
